

平成29年度第1回富里市男女共同参画社会づくり懇談会  
議 事 録

〈日時〉平成29年6月19日（月）

午後2時～3時45分

〈場所〉富里市役所本庁舎3階第3会議室

■出席者

- (委員) 富里市商工会 寒郡 茂樹 (座長)  
浩養小学校長 渡邊 薫 (職務代理者)  
富里市総務部長 加藤 浩史  
千葉県男女共同参画地域推進員 小出 正史  
公募委員 二上 正栄  
公募委員 羽鳥 葉子  
まちづくりコーディネーター 平野 希  
民生委員・児童委員 宮本 和子  
(事務局) 相川企画課長, 細野副主幹, 原口  
(傍聴人) なし

■配布資料

- ・平成29年度第1回富里市男女共同参画社会づくり懇談会次第
- ・資料1 富里市男女共同参画社会づくり懇談会設置要綱
- ・資料2-1 富里市男女共同参画計画について
- ・資料2-2 富里市男女共同参画計画 (第2次)
- ・資料2-3 富里市男女共同参画計画 (第2次) 概要版
- ・資料2-4 富里市男女共同参画推進本部設置要綱
- ・資料2-5 富里市男女共同参画研究班設置要綱
- ・資料2-6 平成28年度富里市男女共同参画計画 (第2次) 進捗状況
- ・資料3-1 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の概要
- ・資料3-2 男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査結果
- ・資料3-3 平成29年度富里市男女共同参画スケジュール

1 開会

2 あいさつ

- ・相川市長よりあいさつ

3 委嘱状交付

4 自己紹介

5 富里市男女共同参画社会づくり懇談会の設置趣旨について

【事務局】資料1を基に説明

6 富里市男女共同参画社会づくり懇談会座長の選任について

- ・互選により寒郡委員に決定

【寒郡座長】

- ・職務代理者として、渡邊委員を指名する。

【渡邊委員】

- ・承知した。

7 議題

(1) 富里市男女共同参画計画（第2次）について

(2) 富里市男女共同参画計画（第2次）の見直しについて

【事務局】資料2-1～資料3-3を基に説明

【委員】

・現行計画は、市役所が担っている部分がたいへん多い計画になっている。皆様からご意見をいただいて事務局で計画を作成することになっている。市の実情だけご説明させていただく。当市においても少子高齢化が進んでいる。小中学校の児童生徒数を見ると、平成8年4月時点では5,500人だったが、今年4月1日時点では3,383人で約4割の減。それと相反して高齢化は進んでいる状況で、当市の高齢化率は現在はまだ全国平均より低いですが、2020年には28.9%となり全国に並ぶことになる。75歳以上の高齢者は5,915人で、人口の8人に1人の割合となる。新しい魅力のある市を作っていくにはどうしたらよいかということで日々考えているところである。事業主の行動計画で具体的な数値目標を掲げているが、男性の育児休暇については今のところ取得者は3名である。また女性職員の数は全体の27.4%である。現状としては男性女性を問わず適材適所の人員配置となっている。そもそも女性職員の割合が少ないこともあり、非常に苦慮しているところである。当市は成田空港とともに発展してきたこともあり、職員のピラミッドが団塊の世代より後にくる。これから10年で130人くらい減ってしまう。今後は、特定事業主行動計画に基づき女性の活躍の場の提供し、女性活躍を推進していきたいと思う。

【委員】

・進捗状況で目標達成できたところはすばらしいと思う。アンケートのところで、もう少し高齢者が若い人を応援するようであればいけないと感じた。高齢化が進んでいく中で、子どもたちが富里市出身であることを自慢できるような、自信を持って生きられるような市にしていくために、高齢者が理解をもって若い人たちの活躍を積極的に応援していくことが大切で、富里市男女共同参画計画の中に高齢者にアプローチしていくようなことを盛り込んだらいいと思う。

【委員】

・核家族化が進んで、自治会にすら入らない人たちがいるご時世で、他人とのつながり、地域とのつながりが希薄化している。高齢化が進んで高齢者が増えているのだから、子どもたちと高齢者が一緒に何かできればと思うが、それすら難しいのかなと感じてしまう。

### 【委員】

・子育てをしながら 10 年間働いていた自らの経験の中で感じたことは、働きたい気持ちはあっても、出産・子育てをしながら職業生活を継続することは難しいということ。両親の高齢化や配偶者の職場で置かれている立場で家族に頼れない女性も多くいると思うので、女性活躍を推進するならば、女性が安心して働き続けることができるように、人の役に立ちたいと思っっているような元気なシニアの方々、独居の方々の力を借りることができれば、人とのつながりや絆を深めるという意味でも、子どもたちの成長にも良い影響が与えられると思うので、そういったことがあるといいと思う。

### 【委員】

・富里市の農村地帯の原風景と人の良さに魅了された。ある農家の高齢の女性に背中を押していただいて今の活動をしている。「小規模多機能自治」について先日学んだ。おおまかに言うと、小さな地区・地域という単位から問題を探り発掘し、市民の力で解決していくというものだった。富里市の北部・中部・南部、小学校区でもいいが、まずは市でデータを取って、それを市民に「あなたの地域ではお年寄りが多いですよ」「あなたの地域では若い人が多いですよ」というように各地域にデータを示して知ってもらってから、ボランティア団体などをお願いして地域の魅力づくりや問題の解決等について考えてもらう。ずっと富里市を好きでいられるように、市民と市が一緒になって事業やイベントを作っていければいいと思う。

### 【委員】

・自分のボランティア活動の中で、ここ数年の間に子どもたちの貧困について知った。富里市にも給食で栄養を摂っている子どもたちがいることを知った。いろいろなボランティア活動があるが、身近に支援しなければならぬ人たちが、子どもたちがいることに非常に考えさせられる。そういうことに端を発して「地域の子どもたちと食を通しての交流」ということで子ども食堂のようなことをしている。メンバーは60～70代の人たちである。声を掛ければそういうボランティアに参加してくれるシニアの方々もまだまだいると思う。

### 【委員】

・自らの経験の中で、ジェンダーフリーとか男女共同参画とは言いながらも、まだまだ性別に対する固定観念があると残念に感じたことがある。それからは性別にとらわれず、なりふりかまわず頑張ってきた。計画の中に「各種団体等における女性リーダーの拡充」があるが、女性管理職の登用とか女性リーダーの拡充とかいうのではなく役職として育てていくというのが大切だと思う。男女お互いに教わることもあるわけで、女性としてとかではなく、役職として育成していくというのが大切だと思う。意識調査の中で非常にずれを感じた。「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」という部分である。学校現場では性別にとらわれない教育ということに努めている。差別と区別は違うので、性差によって差別はしないが区別をすることがある。学校では男女平等について学ばせているが、まだまだ学校現場と市民の意識に乖離を感じるので、学校現場としても何かの形でアピールしていくことが必要だと思うし、ひとりひとりの個性を重視して個性を伸ばしていくような教育が必要だと感じた。

### 【座 長】

・進捗状況調査の中で、感じた点がいくつかある。企業に属しながら働いている人たちの環境整備という点についてであるが、富里の地域性として夫婦で農業をやっていたり、夫婦で小規模事業をやっている人たちもたくさんいるわけで、そういうところに置かれた女性は非常に苦勞なさっているのではと感じる。そういう女性やフリーランスの人たちなどが置かれている環境はどうなのかということにもっと着目してもいいのではないか。そういう人たちに対する環境整備が切り口としてもう少しあってもいいと思う。また、富里市は非常に外国人の人口が多いという特性があるので、外国語しか話せず学習に困難がある子どもたちや外国人の雇用など、外国人の困りごとに対する支援について、ボランティアや国際交流協会に頼るばかりでなく、行政として踏み込んでいってもいいのではと感じている。

### 8 その他

・事務局より、会議録及び名簿を市ホームページにて公開すること、次回懇談会は10月頃開催予定である旨、連絡

### 9 閉会